

日本ピラー工業株式会社

PILLAR REPORT

第60期中間営業のご報告

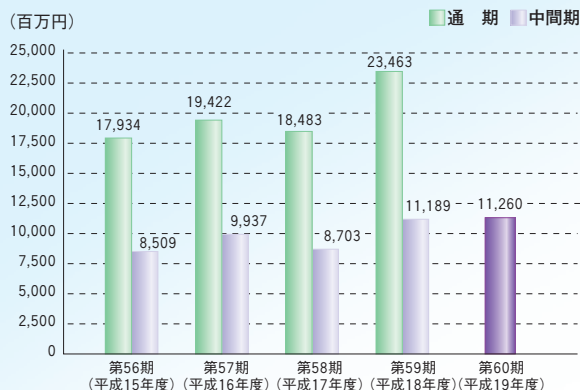
平成19年4月1日から平成19年9月30日まで

目次

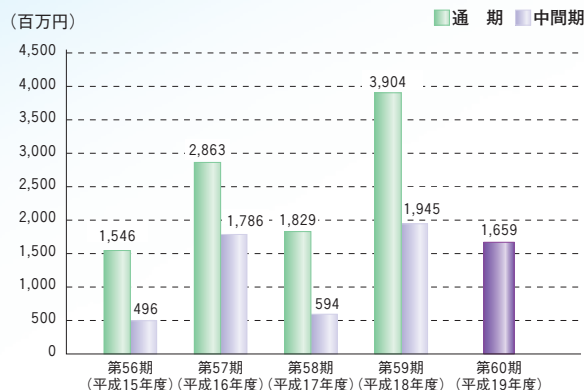
連結財務ハイライト	1	連結財務諸表	5・6
株主の皆様へ	2	単体財務ハイライト	7
業績の概況		単体財務諸表	8
中長期的な経営戦略	3	株式情報	9
営業の概況	3	会社情報	10
通期の見通し	3		
製品部門別の概況(連結)	4		

連結財務ハイライト

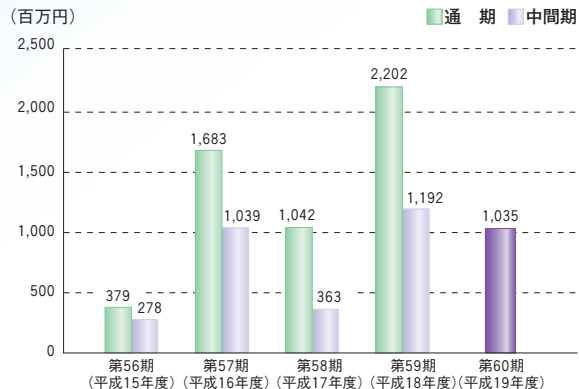
売上高



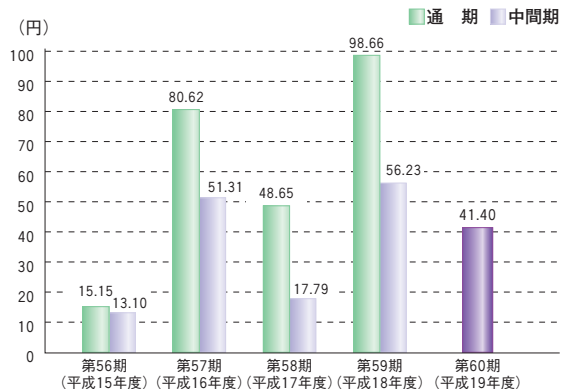
経常利益



当期純利益



1株当たり当期純利益



株 主 の 皆 様 へ



代表取締役社長

岩波 清久

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社第60期中間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の営業のご報告をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは、「お客様満足」が企業活動の原点にあり、お客様から高い評価と信頼を得ることが持続的な成長と収益の実現を可能にし、それが企業価値の向上と株主の皆様の利益につながるものと認識しております。

そのため、創業以来追求してきた「流体の漏れを止める技術」を基本技術とし、材料技術、設計技術、精密加工技術など当社グループ固有の流体制御技術を活用して、独創的で高品質な製品を提供し、省資源と安全でクリーンな地球環境づくりに貢献するとともにお客様にとってかけがえのない企業を目指すことを基本方針としております。

また、事業環境の変化に迅速に対応し、お客様の要望に応える新しい価値を提案・提供できる体制の構築を目指すとともに、国際競争力を備えた経営体質を早期に創り上げ、法令や社会規範を順守し、公正で健全な企業活動に努め、良き企業市民として豊かな地域社会の発展に貢献することを目指しております。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

経 営 理 念

1. 住みよい地球と豊かな社会環境づくりに貢献します。
2. 独創的で高品質な製品を提供し、お客様にとってかけがえのない企業を目指します。
3. 法令・社会規範を順守し、公正で健全な企業活動を行います。

業績の概況

中長期的な経営戦略

当社グループはメカニカルシール、グランドパッキン・ガスケットなどのシール製品を産業機器業界向けの安定した業容と収益基盤を持つ基幹事業製品として位置づけ、新製品の開発、新市場・新用途の開拓、海外生産体制の充実ならびに海外市場での受注活動にも積極的に取り組んでまいります。また、国内市場ではノンアスベスト製品の拡販やお客様のニーズに迅速に対応できるよう補修体制の充実、シールエンジニアリングサービスの向上を目指してまいります。

半導体・液晶製造装置関連業界向けのふっ素樹脂製品は半導体・液晶市場の景気変動の影響を受けるものの中長期的には成長分野と考えております。今後とも市場の変化に迅速に対応できる開発・生産体制を整え、海外市場も含めた新規顧客の獲得や販売・サービス体制の充実を図ってまいります。

さらに、今後成長が見込める食品・バイオ・メディカル、新エネルギー、デジタル機器、自動車関連のニッチ市場向けに高付加価値製品を開発・提供するため、当社グループ固有のコア技術に新たな技術が付加できるよう、研究開発体制を充実すると同時に、技術導入・共同研究などを推進し、次期の新市場づくりを目指してまいります。

これらに加え、不断のコストダウンや業務の標準化・効率化、スピード化を積極的に推進し、経営体質の一層の強化に努めてまいります。

営業の概況

◎当社グループの事業の経過およびその成果

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資の増加や底堅い個人消費に支えられながら、息の長い緩やかな景気回復基調がつつきました。また、世界経済は米国サブプライムローン問題に端を発した各国金融市場の混乱等により、不安定要素の拡大が懸念されましたが、総じて堅調に推移しました。

しかしながら依然として原油価格や素材価格の上昇懸念など、国内外の経済に影響を及ぼす懸念材料は払拭されておりません。

このような環境の中、当社グループの中核のひとつでありますシール製品におきましては、電力を中心とした既存設備の保守費用削減や受注獲得競争の激化は続いているものの、メンテナンス一括受注業務や各市場への積極的な販売活動を展開し、事業基盤の強化に努めました。

もうひとつの中核であります半導体・液晶製造装置関連業界向けピラフロン製品は、半導体・液晶メーカーの設備投資延期の影響を受けた半導体・液晶製造装置関連市場の受注回復遅延により、厳しい状況となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は112億60百万円（前年同期比0.6%増）となり、利益面では、営業利益は15億38百万円（前年同期比18.4%減）、経常利益は16億59百万円（前年同期比14.7%減）、中間純利益は10億35百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

通期の見通し

国内経済は設備投資や個人消費に支えられ、全般的には引き続き緩やかな拡大傾向で推移するものと予想されますが、米国サブプライムローン問題の長期化、また原油価格の高止まりや素材価格の高騰の影響が見込まれるなど、収益環境は不透明感が続くものと予想されます。

このような環境の中で、産業機器分野向けシール製品は、価格競争の激化が見込まれているものの、新規プラント案件の受注獲得、ノンアスベスト製品の拡販、新市場、新用途製品の開発などを国内外で積極的に営業活動してまいります。

一方、半導体・液晶製造装置関連業界向けピラフロン製品は、半導体・液晶製造装置関連の受注回復の遅れが見込まれ、引き続き厳しい環境が続くものと思われます。

こうした状況のもと、当社グループの平成20年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は230億円、営業利益は27億円、経常利益は29億円、当期純利益は18億円を予想しております。

製品部門別の概況(連結)

その他部門(不動産賃貸)

44百万円(0.4%)

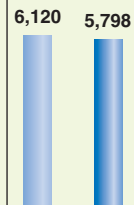
その他部門の売上高は44百万円(前年同期比0.3%減)となりました。

PF製品部門(ピラフロン製品部門)

57億98百万円(51.5%)

半導体・液晶製造装置関連業界向けピラフロン製品、建設業界向け免震関連製品とも受注が減少したため、売上高は57億98百万円(前年同期比5.3%減)となりました。

【売上高】(百万円)



第59期 第60期
(前中間期) (当中間期)



剛すべり支承



スーパー300タイプピラーフィッティング



スベラ300ペロースポンブ

MS製品部門(メカニカルシール製品部門)

31億90百万円(28.3%)

電力などエネルギー分野における保守費用削減や受注競争が激化するなかで、ケミカル関連、船舶、石油精製分野への受注活動を強化するとともに、半導体・液晶関連業界向けの新用途製品の受注増もあり、売上高は31億90百万円(前年同期比11.4%増)となりました。

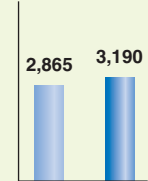


ピラー
カセットシール



ピラーベローバック

【売上高】(百万円)



第59期 第60期
(前中間期) (当中間期)



ノンアスベストガスケット



ノンアスベストシートガスケット



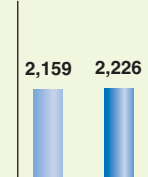
ノンアスベストグランドパッキン

GP製品部門(グランドパッキン・ガスケット製品部門)

22億26百万円(19.8%)

電力業界、ケミカル業界の定期検査の延長や保守費用の削減傾向が続くなかで、ノンアスベスト製品の積極的な受注活動を展開しました結果、売上高は22億26百万円(前年同期比3.1%増)となりました。

【売上高】(百万円)



第59期 第60期
(前中間期) (当中間期)

連結売上高
112億60百万円
(100.0%)

連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間連結 会計期間末 平成19年9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成18年9月30日現在	前 連 結 会 計 年 度 平成19年3月31日現在
(資 産 の 部)			
流 動 資 産	19,735	16,570	20,343
固 定 資 産	12,457	12,243	12,508
有形固定資産	8,283	8,089	8,179
無形固定資産	131	93	124
投資その他の資産	4,042	4,060	4,204
資 産 合 計	32,192	28,813	32,852

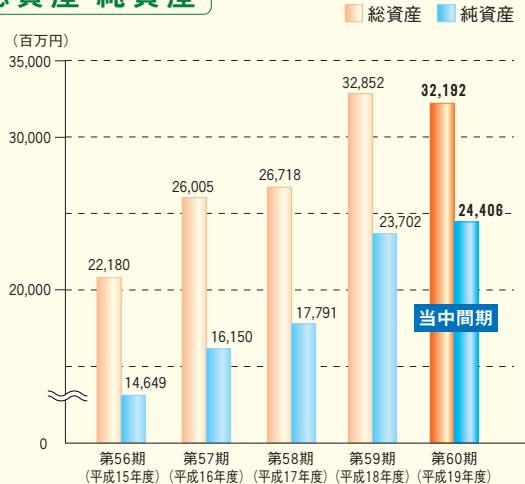
(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

(単位:百万円)

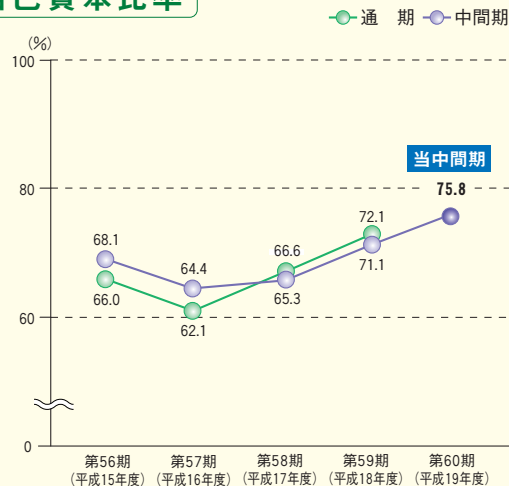
科 目	当中間連結 会計期間末 平成19年9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成18年9月30日現在	前 連 結 会 計 年 度 平成19年3月31日現在
(負 債 の 部)			
流 動 負 債	5,776	6,214	7,037
固 定 負 債	2,009	2,100	2,112
負 債 合 計	7,786	8,315	9,149
(純 資 産 の 部)			
株 主 資 本	23,209	19,321	22,479
評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,196	1,177	1,223
純 資 産 合 計	24,406	20,498	23,702
負 債 及 び 純 資 産 合 計	32,192	28,813	32,852

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

総資産・純資産



自己資本比率



中間連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間連結 会計期間	前中間連結 会計期間	前 連 結 会計年度
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売 上 高	11,260	11,189	23,463
売 上 原 価	7,278	6,974	14,699
売 上 総 利 益	3,981	4,215	8,764
販売費及び一般管理費	2,443	2,330	4,980
営 業 利 益	1,538	1,884	3,784
営業外収益	147	96	202
営業外費用	25	35	83
経 常 利 益	1,659	1,945	3,904
特 別 利 益	31	2	105
特 別 損 失	0	10	19
税金等調整前中間(当期)純利益	1,691	1,938	3,990
法人税、その他	655	745	1,787
中間(当期)純利益	1,035	1,192	2,202

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間連結 会計期間	前中間連結 会計期間	前 連 結 会計年度
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,247	990	2,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,013	△327	△3,203
財務活動によるキャッシュ・フロー	△475	△206	1,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△6	11
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△240	448	553
現金及び現金同等物の期首残高	2,524	1,971	1,971
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,284	2,419	2,524

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

■連結の範囲および持分法の適用

国 内	ビラーサービス販売(株) 中部ビラーサービス販売(株) 東京ビラー(株)
	北陸ビラー(株) ビラーエンジニアリングサービス(株)
	関東ビラーエンジニアリングサービス(株)
	山陽ビラーエンジニアリングサービス(株) 日高精工(株) エヌビイ工業(株)
	日本ビラー九州(株)*1 エヌビイ産業(株)*1 ビラーテクノ(株)*1
海 外	日本ビラーシンガポール(株) 台湾ビラー工業(株)
	日本ビラーアメリカ(株) 蘇州ビラー工業有限公司*1
	上海ビラートレーディング有限公司*1 韓国ビラー工業(株)*2

(注) 無印:連結子会社 *1:非連結子会社で持分法非適用会社 *2:関連会社で持分法非適用会社

中間連結株主資本等変動計算書 当中間連結会計期間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	4,966	5,190	12,333	△11	22,479	1,209	13	1,223	23,702
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△300		△300				△300
中間純利益			1,035		1,035				1,035
自己株式の取得				△5	△5				△5
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△43	16	△26	△26
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	735	△5	730	△43	16	△26	703
平成19年9月30日残高	4,966	5,190	13,068	△16	23,209	1,166	29	1,196	24,406

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

単体財務ハイライト

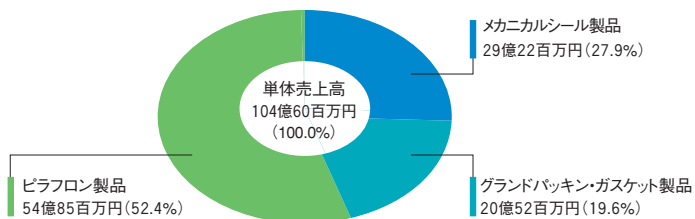
売上高 **104億60百万円** (前年同期比1.2%減)

営業利益 **10億23百万円** (前年同期比29.0%減)

経常利益 **12億62百万円** (前年同期比21.1%減)

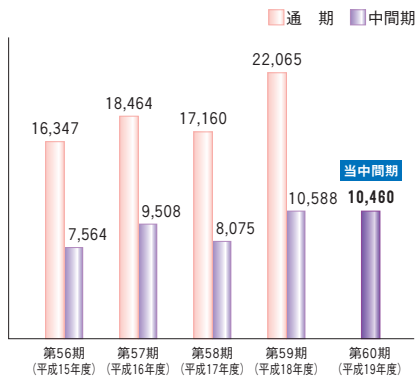
中間純利益 **8億30百万円** (前年同期比11.8%減)

部門別売上高構成比 (単体)



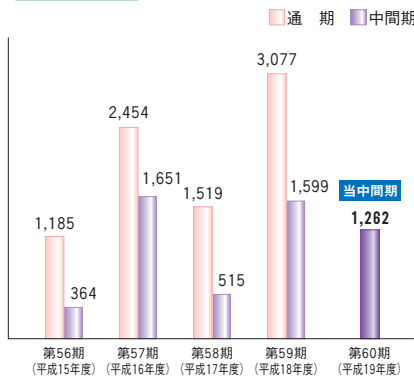
売上高

(百万円)



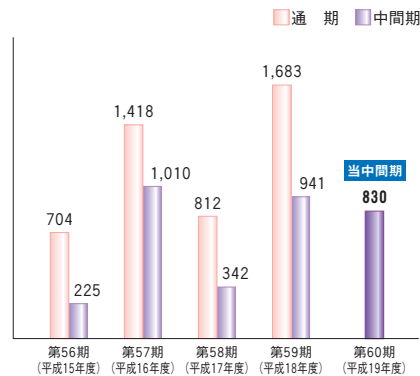
経常利益

(百万円)



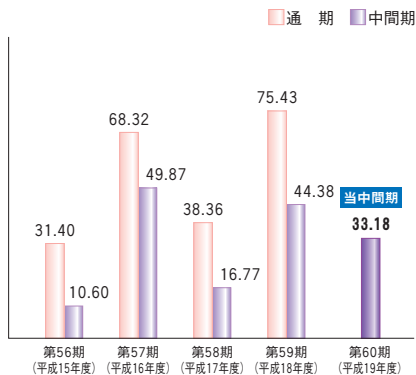
当期純利益

(百万円)



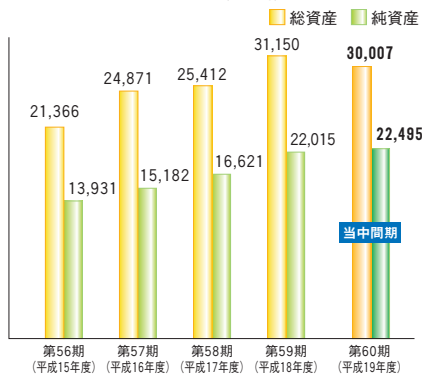
1株当たり当期純利益

(円)



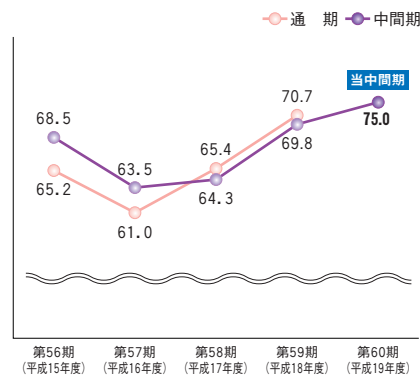
総資産・純資産

(百万円)



自己資本比率

(%)



単体財務諸表

中間貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間会計 期間末 平成19年9月30日現在	前中間会計 期間末 平成18年9月30日現在	前事業年度 平成19年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	17,528	15,285	18,826
固定資産	12,478	12,077	12,324
有形固定資産	6,611	6,648	6,767
無形固定資産	127	89	121
投資その他の資産	5,738	5,339	5,436
資産合計	30,007	27,363	31,150
(負債の部)			
流動負債	5,642	6,245	7,139
固定負債	1,868	2,018	1,996
負債合計	7,511	8,264	9,135
(純資産の部)			
株主資本	21,332	17,917	20,808
資本金	4,966	4,268	4,966
資本剰余金	5,190	4,068	5,190
利益剰余金	11,191	10,103	10,662
自己株式	△16	△523	△11
評価・換算差額等	1,162	1,181	1,207
純資産合計	22,495	19,099	22,015
負債及び純資産合計	30,007	27,363	31,150

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

中間損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間 会計期間 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間 会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前事業年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	10,460	10,588	22,065
売上原価	7,382	7,164	14,960
売上総利益	3,078	3,424	7,105
販売費及び一般管理費	2,054	1,983	4,260
営業利益	1,023	1,440	2,844
営業外収益	266	190	317
営業外費用	27	31	84
経常利益	1,262	1,599	3,077
特別利益	29	0	98
特別損失	—	10	19
税引前中間(当期)純利益	1,291	1,589	3,156
法人税、住民税及び事業税	292	643	1,435
法人税等調整額	168	4	37
中間(当期)純利益	830	941	1,683

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

中間株主資本等変動計算書(要旨) 当中間会計期間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

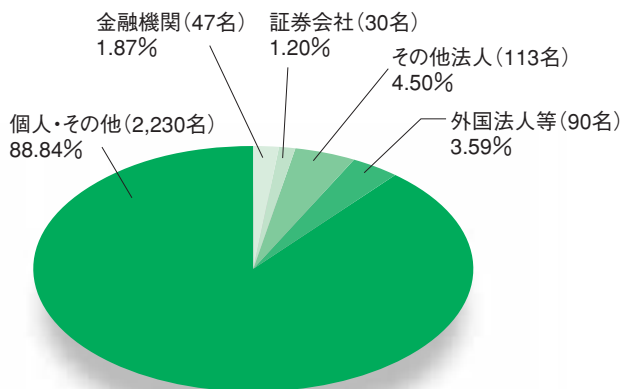
(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年3月31日残高	4,966	5,190	10,662	△11	20,808	1,207	22,015
中間会計期間中の変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩			—		—		—
剰余金の配当			△300		△300		△300
中間純利益			830		830		830
自己株式の取得			—	△5	△5		△5
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△44	△44
中間会計期間中の変動額合計	—	—	529	△5	524	△44	480
平成19年9月30日残高	4,966	5,190	11,191	△16	21,332	1,162	22,495

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。)

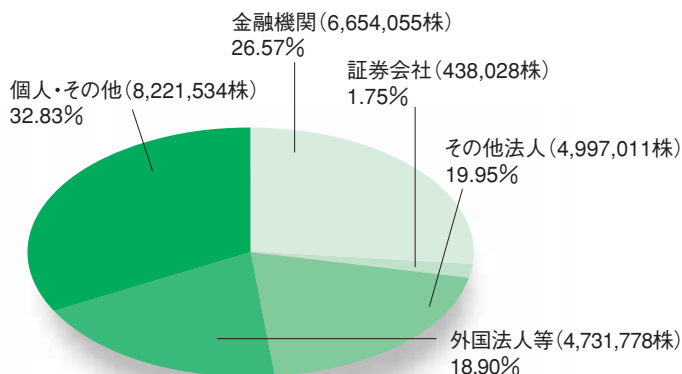
株式情報 (平成19年9月30日現在)

所有者別株主分布



合計:2,510名 100.00%

所有者別株式分布



(注)自己株式21,650株は「個人・その他」に含まれています。

合計:25,042,406株 100.00%

株式の状況

会社が発行する株式の総数 80,000,000株
発行済株式総数 25,042,406株

株主数 2,510名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,335	5.33
有限会社ロックウェーブ	1,020	4.07
日本ピラー工業取引先持株会	824	3.29
岩波 清久	702	2.80
明治安田生命保険 相互会社	700	2.79
株式会社みずほ銀行	692	2.76
株式会社三井住友銀行	692	2.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	649	2.59

(注)持株比率は、自己株式数(21,650株)を控除して計算しております。

会社概要

商号	日本ピラー工業株式会社 NIPPON PILLAR PACKING CO.,LTD.
本社	大阪市淀川区野中南2丁目11番48号
創業	1924年(大正13年)5月
設立	1948年(昭和23年)5月
代表者	代表取締役社長 岩波 清久
資本金	49億66百万円
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部 大阪証券取引所 市場第1部
従業員数	517名
事業内容	メカニカルシール、グランドパッキン・ガスケット、 ピラフロン(ふっ素樹脂製品)等 流体制御関連機器製品の製造販売
ホームページアドレス	http://www.pillar.co.jp/

取締役・監査役および執行役員

代表取締役社長 社長執行役員	岩波 清久	常務執行役員	大場 寛二
取締役 専務執行役員	坪根 巖	常務執行役員	宮原 宣武
取締役 執行役員	大岩 輝雄	常務執行役員	真鍋 賢司
取締役相談役	岩波 薫	執行役員	石黒 宏孝
取締役	中川 威雄*	執行役員	青山 博
常勤監査役	小屋敷忠士	執行役員	清水 正夫
常勤監査役	市川 士郎	執行役員	大崎 眞仁
監査役	嶋本 康夫**	執行役員	鷺田 尚毅
監査役	門屋 明**	執行役員	後藤 幸生

* 取締役 中川 威雄氏は、社外取締役であります。

** 監査役 嶋本康夫、門屋 明の両氏は、社外監査役であります。

主要事業所

本社	〒532-0022 大阪市淀川区野中南2-11-48 TEL (06) 6305-1781
三田工場	〒669-1333 兵庫県三田市下内神字打場541-1 TEL (079) 567-2121
福知山工場	〒620-0853 京都府福知山市長田野町2-66-3 TEL (0773) 27-7871
九州工場	〒861-1116 熊本県合志市福原1-25 TEL (096) 292-4511
東京支店	〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2(富国生命ビル) TEL (03) 3508-1611
横浜支店	〒231-0012 横浜市中区相生町6-113(桜木町ANビル) TEL (045) 201-1361
名古屋支店	〒461-0005 名古屋市東区東桜1-4-13(アイ高岳ビル) TEL (052) 962-7861
京都支店	〒600-8482 京都市下京区堀川通綾小路下る綾堀川町293-1(堀川通四条ビル) TEL (075) 353-4335
大阪支店	〒532-0022 大阪市淀川区野中南2-11-48 TEL (06) 6302-5201
神戸支店	〒673-0898 明石市樽屋町1-29(日工住友生命ビル) TEL (078) 914-6654
広島支店	〒732-0827 広島市南区稲荷町4-1(住友生命広島ビル) TEL (082) 568-2541
九州支店	〒861-1116 熊本県合志市福原1-25 TEL (096) 292-4511

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

定時株主総会 6月

配当金受領株主確定日 3月31日

なお、中間配当を実施するときの
株主確定日は、9月30日です。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒530-0004

(お問い合わせ先) 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL 0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本・支店
野村証券株式会社 全国本・支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、
次の三菱UFJ信託銀行の電話および
インターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)

0120-244-479(本店証券代行部)

0120-684-479(大阪証券代行部)

ホームページアドレス

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告掲載紙 日本経済新聞



この印刷物は再生紙を使用しています。
印刷には地球にやさしい植物性大豆油
インクを使用しています。